



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

Title	5. 「ひきこもりグループミーティング」について(第13回岐阜神経精神医学集談会)
Author(s)	野寄, 理
Citation	[岐阜大学医学部紀要 = Acta scholae medicinalis universitatis in Gifu] vol.[52] no.[1] p.[23]-[23]
Issue Date	2004-03-31
Rights	
Version	NIIによる電子化
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/12597

この資料の著作権は、各資料の著者・学協会・出版社等に帰属します。

5. 「ひきこもりグループミーティング」について

岐阜県精神保健福祉センター

野寄 理

2002年度から、当センターではひきこもりグループミーティングを実施している。2002年度は月に1回、2003年度は2回開き、毎回5～10名の参加がある。開催に当たって、1) グループに参加して何かを得たと思ってもらえる、2) 親にスポットを当て、親がどうすると良いかに話題を絞る、という点を目標にしている。ミーティングは、良いこと探し、教育セッション、グループのルールの読み上げ、テーマ決定、ティータイム、ディスカッション、感想、情報提供という流れで、2時間かけて行う。本ミーティングの特徴として、1) 心理教育と問題解決指向の2つの機能を備えた構造化されたグループである、2) 家族が元気の出る情報を数多く獲得できる、3) グループは複数のスタッフによる共同作業である、といった点があげられる。「事態を冷静に見つめられるようになった」などと参加者の反応はよく、1年目のメンバー全員が2年目も継続して参加している。

6. 岐阜大学新入生全員面接後のフォローアップ

岐阜大・保健管理センター

森 正樹

岐阜大学は過去30年以上に渡り、新入生(本年度約1400名)にUPI (University Personality Inventory: 健康調査票)を用いた面接を実施し、毎年、実施率は約97%である。面接やUPIの結果を元に、再接触が必要と思われる学生を抽出し、実施することで、疾患の早期発見、メンタルヘル스에役立っている。過去の研究から、初回面接を

受けていない学生に留年・退学が多く、それとUPIのLie Scale, 総得点がともに有意に相関することが知られている。再接触が必要な学生を抽出する有効な方法の確立と実施率の向上、初回面接を受けていない学生に対して保健管理センターへの心理的距離を縮めていくことが今後の課題である。学生相談全体では、年間250～450回の面接(実数100名弱)が行われている。相談が必要な学生は3～11%と推測されており、一層の面接が望まれる。その施策として、本年度は自由提出してもらった新3年生のUPIを活用する予定である。

7. 新臨床医研修制度における精神科研修の役割

岐阜大・医・神経科精神科

高田知二

2004年より始まる新医師臨床研修制度において精神科研修に求められているものは、プライマリケアを重視した精神科医療(面接、診断、治療)、それに基づく総合病院精神科医療(リエゾン、コンサルテーション)、地域精神科医療・保健である。これらは、精神病理学に立脚した精神科臨床でこそ達成されるものであり、それは岐阜大学精神科がこれまで追及してきた臨床、教育、研究そのものである。また、厚生労働省が行った全国規模のアンケートの結果から、研修医自身もそれらを求め、それが可能になるならば、必ずしも出身大学での研修にこだわっていないことが分かった。したがって、岐阜大学精神科、及びその出身者からなる拡大医局会が従来の臨床、教育、研究を推し進め、新制度に取り組むことにより、全国にアピールできる研修体制を作ることができる。これを機に、われわれ拡大医局会が実践する地域医療がますます発展していくことが期待される。